

日本経済新聞社の企業内研修向けプログラムのご案内

日経 経済知力研修



変化する社会情勢・世の中の動きの理解を深め
情報活用力・思考力・発想力を強化する

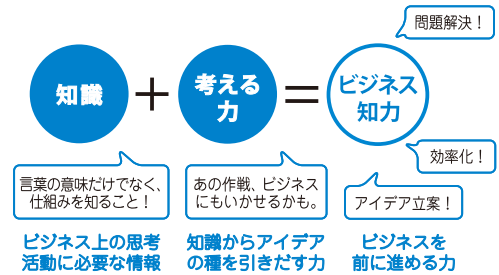
日本経済新聞のベテラン記者や記者経験者が登壇し、わかりやすく解説します



日経 経済知力研修

経済知力(ビジネス知力)とは？

経済知力(ビジネス知力)を簡単に定義すると、ビジネス上の思考活動に必要な「知識」と、知識を活用するための「考える力(知力)」の総体といえます。情報収集、選別・整理、編集・加工した情報を基に、因果関係や仮説を考え出す力を意味し、経済やビジネスの仕組みや流れを理解し新たな事業を創出するなど、これからの若手から中堅社員、幹部まですべてのビジネスパーソンに求められる能力です。



日経 経済知力研修について

「日経 経済知力研修」は、豊富な取材経験を持つ日本経済新聞社のベテラン記者経験者が中心となって講師を務める企業向け研修プログラムです。ビジネスパーソンとして知っておくべき主要な経済ニュースの見方から、国内外の経済情勢、注目トピックスなどについて解説するとともに、仕事で使える情報収集・活用と思考・発想のスキルを伝授します。講義と参加型の演習を交えて構成する「経済・ビジネストレンド講座」を中心に、複数のコースを用意しています。半日研修、または複数コースの組み合わせで1日研修として実施いただけます。

特徴と効果

日本経済新聞社のベテラン記者経験者が登壇

「日経 経済知力研修」は豊富な取材経験を持つ日本経済新聞社の編集委員、ベテラン記者経験者が講師を務める企業・団体向け研修プログラムです。生きた経済の見方や業界の最新動向などを解説し「社会の事象と自身の業務とを関連づけて考えるビジネススキル」を、研修を通じて身につけていただくことがねらいです。

新聞記事を活用したオリジナル教材

本プログラムでは当日の講義内容に即したオリジナルテキストを使用します。日本経済新聞や専門紙で掲載された主要な新聞記事の抜粋に解説を加えるなど、生きた経済を分かりやすく理解するために工夫された構成です。また、最新のニュースについて触れることも考慮して、講義当日の日本経済新聞の朝刊も配布します。

参加型のグループワークや発表演習による「気づき」効果

本プログラムには、講師の一方向的な講義だけでなく、個人ワークやグループ討議・発表などの演習が含まれます。当日の新聞記事を素材にして「先読み」をしたり、担当業務や自社の取るべき戦略などについて受講者同士で考えることで「気づき」につながります。

<特徴>

<効果>



日経のベテラン記者経験者
による独自の講義



新聞記者が日々の取材・編集業務で行っている
情報活用や先読み発想のスキルを学ぶ。



経済動向やビジネストレンドなど、
最新の記事を使った教材
※当日の日経朝刊を受講人数分お届けします



最新の経済ニュースの理解を深め、顧客との
会話など、実際の仕事で実施・活用する。



講義に加えて、グループ演習を
交えた参加型研修



ディスカッションを通して考え抜くとともに、
新たな知見・情報を得る。

「経済・ビジネストレンド講座」

午前は経済ニュースの基本的な見方や集めた情報をもとに仮説を立てて将来を考えるとといった思考・発想法について解説します。午後の経済・ビジネストレンドをテーマにした講義では、国内を中心とした経済・景気動向、日本社会の構造変化の話題など、我々のビジネスを取り巻く外部環境の見方について解説します。講義中にはテーマ別に複数のグループワークを実施して、ニュースと自分の仕事の関連性などについて理解を深めるとともに、他参加者との意見交換を踏まえて、自分で結論を出し、意見を述べる、という機会を設けます。最後はご希望に応じて演習を続行する、日経TESTで自分自身の経済・ビジネスの基礎知識と情報活用力をチェックする、または実施企業・参加者の関心あるテーマに特化した専門講義を行います。

❖ プログラム例

10:00-12:00	<h3>1. 経済ニュースの見方と情報活用術</h3> <h4>1. 情報のアンテナを高くしよう</h4> <p>(1) ビジネスパーソンと情報～世界はつながっている～ (2) 記者経験者がこっそり教える「新聞の読み方5段階」とは</p> <h4>2. 世の中の大きな流れ(トレンド)を読む</h4> <p>(1) ビジネスでも使える新聞記者の思考法① (2) 複数の事実からキーワードを考える (3) テレンドに沿った企画・提案を考える ▶ 演習「ヒット商品に共通するキーワードは？」</p> <h4>3. この先の変化を自分なりに予測する～仮説構築力～</h4> <p>(1) ビジネスでも使える新聞記者の思考法② (2) 仮説を立て将来を予測する (3) 仮説は足元の実事と常に検証する ▶ 演習「新聞記事のニュースをもとに、仮説を立ててみる」</p>
昼食休憩(60分)	
13:00-15:00	<h3>2. 経済・ビジネストレンドを読み解く</h3> <h4>1. 日本と世界のいま</h4> <p>(1) 経済の基本的な仕組み (2) 国内景気の見方 (3) 国の経済政策(日銀の金融政策、TPP、規制緩和など) (4) 米国・欧州や中国などのアジア・新興国の動き</p> <h4>2. 社会構造の大きな変化と新しい波</h4> <p>(1) 縮む日本(少子高齢化)と膨らむ世界 (2) ITビジネスの進化と「勝ち組」のビジネスモデル (3) 日本の強みを世界で売れ</p> <h4>3. 企業活動の最前線～主要企業の新しい取り組み～</h4> <p>(1) デジタル敗戦の教訓 (2) 挑戦する日本企業とイノベーション (3) 成長市場は新興国 (4) 日本の強みを世界で売れ ▶ 演習「変化の予兆を自分なりに読んで、自分の会社・仕事への影響を考える」</p>
15:00-16:30	<h3>3. A B C から選択</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; background-color: #ADD8E6; padding: 5px;"> <h4>A グループワーク・発表</h4> <p>前半の講義に関する話題や新聞記事を使った演習を続行。自分の仕事と世の中の動きを関連付けて考える力をさらに鍛えます。</p> </div> <div style="width: 30%; background-color: #ADD8E6; padding: 5px;"> <h4>B 日経TEST研修ドリル</h4> <p>日経TEST研修ドリル(50問・40分)を実施した後、TESTで問われた主要な経済知識と思考力について、例題を使って解説します。</p> </div> <div style="width: 30%; background-color: #ADD8E6; padding: 5px;"> <h4>C テーマ別専門講義</h4> <p>業界動向や注目トピックスなど、実施企業・受講者が関心のあるテーマについて、日経の記事をもとにして解説します。</p> </div> </div>
16:30-17:00	修了レポート

※プログラムは開催時点での最新ニュースなどで構成します。開催・終了時間等は、ご希望に応じて変更・調整が可能です。

研修の最後は修了課題(レポート)で効果測定

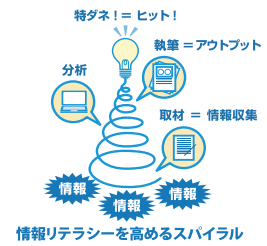
講義の最後には修了課題として記述式レポートを取り入れることが可能です。受講を通して気づいたことや仕事に活用できるといったことなどを自由筆記していただきます。結果については、内容や論理構成などについて受講者毎に評価の上、研修ご担当者様へ一括して返却します。

	ベーシックコース	アドバンスコース
受講対象	新入社員から若手社員まで	中堅層、マネージャー・管理職や役員・経営層など
講義内容	基本内容で構成したプログラムで実施	相談の上、全体構成・内容のカスタマイズが可能
講義時間	半日(3時間程度)または1日(7時間程度)	
講師	1名(日本経済新聞社から)	1名または2名(専門講義の有無などにより調整)
提供資料等	研修テキスト、参考資料、当日の日経新聞朝刊 ※開催後に、受講者には「修了レポートの個別評価結果」を提供します(日経TEST実施の場合は個人成績表も)。	
費用例(税別) (受講人数により変動)	20人受講の場合…1日384,000円、半日294,000円 50人受講の場合…1日510,000円、半日420,000円	20人受講の場合…1日504,000円、半日378,000円 50人受講の場合…1日630,000円、半日504,000円
	※ご留意事項…上記費用は15:00～の内容がAの場合です。Bの場合は日経TEST関係費が、Cの場合は追加講師料がかかります。費用には講師派遣・受講人数分の資料、新聞代、レポート添削費等を含みます。	

「新聞記者の情報術講座」

世の中にあふれる膨大な情報の中から本当に価値のある情報、ニュースを発見するのは簡単なことではありません。毎日、世界中で生まれる大小さまざまな出来事から大きな潮流の断片を見つけ、トレンドを見出すこともかなり難しいことです。その困難な情報収集・分析を毎日こなしているのが新聞記者です。

本講座は、新入社員から中堅社員の情報リテラシーを強化することを目的とした研修プログラムです。新聞記者経験者が講師となっており、記者の情報収集・分析のスキルを整理し、現代を生きるビジネスパーソンにとって有効な形で伝授します。



❖ プログラム例

13:00-14:10	1. 情報のアンテナを高くしよう (1) ビジネスパーソンと情報～世界はつながっている～ (2) 記者経験者がこっそり教える「新聞の読み方5段階」とは
14:10-14:20	休憩
14:20-15:30	2. 世の中の大きな流れ(トレンド)を読む (1) ビジネスでも使える新聞記者の思考法① (2) 複数の事実からキーワードを考える (3) テレンドに沿った企画・提案を考える ▶ 演習「ヒット商品に共通するキーワードは？」
15:30-15:40	休憩
15:40-17:00	3. この先の変化を自分なりに予測する～仮説構築力～ (1) ビジネスでも使える新聞記者の思考法② (2) 仮説を立てて将来を予測する (3) 仮説は足元の実事と常に検証する ▶ 演習「新聞記事のニュースをもとに、仮説を立ててみる」

❖ 料金例

20名 | 4時間の場合(税別) (3時間での実施も可)

基本講義料: 280,000円

資料代: 2,500円×20名=50,000円 計330,000円

❖ 期待される研修効果

- ・複数の情報から法則性を見出し、トレンドの読み方を学び、発想力を向上させる。
- ・自分なりの“仮説”を立てて情報に接し、物事や事象の先を読み、将来の変化を予測する癖をつける。
- ・ニュースの背景の探り方や新聞を使った情報収集・分析手法が身につく。

「お客様との“ビジネス雑談力”研修」

タイムリーな情報がビジネスを左右する昨今、お客様が評価する営業担当者に共通するのが、ビジネスや時事に関する話題をネタにした「雑談」がとても上手だということです。「この営業担当者の話は役に立つ」とお客様が思えば、信頼感が増し、商談への移行はスムーズになり、長期の取引への糸口にもなります。日経新聞の記者経験者が講師となり、日々のニュース記事からの情報の選び方、お客様に役立つ話題に加工するためのコツなど、訪問先での会話に困らない「ビジネス雑談力」の高め方を、事例を交え分かりやすく解説します。



❖ プログラム例

13:00-14:10	1. できる営業、できない営業 分岐点は「ビジネス雑談力」にあった!?
14:10-14:20	2. 新聞から情報を切り取り「話題」を創り上げる ※演習とあわせて、ビジネス界での旬な話題についても情報提供します。 【入門編】まずは新聞を手にとろう ～ネタを用意する～ 【初級編】1つ1つの記事から話題を選ぶ ～ネタの取り入れ方～ 顧客を思い浮かべながら、記事を読もう 【演習】
14:20-14:30	休憩
14:30-15:30	【中級編】複数の記事を読み比べて「話題」を「創る」～ネタに付加価値をつける～ 記事と記事に共通のキーワードがある 【演習】新聞を使ってビジネス雑談をしよう 【上級編】顧客に応じて話題を使い分けよう ～ネタを独自に分析する～ 経営者にどんなビジネス雑談ができるか 【演習】
15:30-16:00	3. 「ビジネス雑談力」を磨くためのポイント (1) 顧客と会話のキャッチボールをしよう (2) 雑談は恋愛と同じかもしれない (3) 経営者とイノベーションを生み出そう

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料: 300,000円

資料代: 3,000円×20名=60,000円 計360,000円

❖ 期待される研修効果

- ・訪問先での会話に困らない「ビジネス雑談力」が高まる。
- ・相手に有益となる情報をどのように探し、ニュースを会話の「ネタ」にどう加工するかのコツを学ぶ。
- ・多くの情報の中から、お客様のためになる情報をキャッチし、自分の言葉で表現できるようになる。

「日本経済を理解するための10のモノサシ」

日本経済の「今」を数字で理解することができる講座です。国内総生産（GDP）、経常収支、株式時価総額、出生率など、「難しそう」との先入観からこれまで敬遠しがちだった10の経済指標（経済のモノサシ）を取り上げ、経済や社会、景気、マーケットの現状を理解し、将来を読みます。日経新聞の記者経験豊富な講師が直近のデータやコンテンツを活用して事例を交え分かりやすく解説します。最低限知っておくべき10のモノサシを常に意識する習慣を持てば、経済の理解が一段と深まるだけでなく、新たな発想や行動などビジネスチャンスの拡大につながるでしょう。



❖ プログラム例

13:00-13:15	1. 日本経済を世界の中で位置付けよう (1) GDP (2) 経済成長率 (3) 1人当たりGDP 小演習「1人当たりGDP 上位の国の共通項は？」 (4) 経常収支
13:15-14:20	2. 好転？悪化？景気の体温を感じよう (5) 日銀短観 (6) 景気動向指数 小演習「景気の動きをすぐに反映する指数はどれ？」
14:20-14:30	休憩
14:30-15:30	3. マーケット（市場）は生きものだ (7) 株、円、金利、原油 小演習「円安で喜ぶ企業は？」 (8) 株式時価総額 小演習「日本企業の巻き返し策は？」
15:30-16:00	4. 待ったなし少子高齢化、そこにビジネスチャンスも (9) 生産年齢人口 (10) 合計特殊出生率 【演習】人口減少でも経済成長するには？

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料：210,000円

資料代：2,500円×20名=50,000円 計260,000円

❖ 期待される研修効果

- ・経済や社会、景気、マーケットの現状を理解し、新たな発想やビジネスチャンス拡大に繋がられる。
- ・日本の経済的な現状と将来動向を学び、自身の仕事や会社、業界とを関連付けて考えられるようになる。
- ・常に最新の経済指標を意識できる。

「ヒット商品の発想術」

消費財メーカーは市場の変化と厳しい競争の中、毎年何万という新製品を世の中に送り出しています。しかし、その中でヒット商品に育つのはごくわずか、大半が短期間で市場から消え去ります。消費者に受け入れられて市場に残る商品と、生き残れない商品の違いは何か、ヒットさせるためには何が必要か。「ヒット商品の発想術」は、これからマーケティング力の強化が必要とされる若手・中堅のビジネスパーソンの皆様に最適なプログラムです。「マーケティングドリル」を10分で解いていただいた後、日経の記者経験者が、問題の解説と問題の中に表れているマーケティングの最新トレンドを講義します。最新の「日経MJヒット商品番付」や消費者のトレンドの背景も含め詳しく分析し、ヒット商品作りに必要な視点や手法を提示します。自身のビジネスへのヒントになりうるかどうかとも考察します。



❖ プログラム例

13:00-13:30	1. はじめに マーケティングの役割 (1) マーケティングの本質と目的 (2) マーケティング脳とは
13:30-13:50	2. マーケティングドリルで基本を学ぶ (1) 4択15問を10分で解く「マーケティングドリル」に挑戦 (2) 答え合わせ
13:50-14:50 (休憩含む)	3. マーケティングドリル解答解説 (1) 基礎知識を身につける (2) 実践知識を吸収する (3) 視野を広げる (4) 知識を知恵にする (5) 知恵を活用する 【演習】新聞記事のニュースをもとに、仮説を立ててみる
14:50-15:50	4. ヒット商品を生むフレームワーク (1) ヒット商品をもとに消費トレンドを知る 【演習】「日経MJヒット商品番付」のヒット商品に共通したキーワードを考えよう (2) アイデア発想のための頭の体操 【演習】ヒットしそうな商品を見つけよう
16:00	まとめ・終了

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料：210,000円

資料代：2,500円×20名=50,000円 計260,000円

❖ 期待される研修効果

- ・マーケティングの最新基礎知識を学ぶことができる。
- ・ヒット商品を通じて最新消費トレンドを知る。
- ・売れる商品作りに必要な視点や手法を学ぶことができる。

「日経TEST研修ドリル&解説講座」

「日経TEST研修ドリル」は、ビジネスの知識と活用力を客観的に測る「日経TEST」を企業・団体の研修用に編成したものです。企業・団体の研修所、会議室などで随時実施が可能です。試験終了後の「解説講座」で、問題・正解・解説を受験者に提供しますので、じっくり復習していただくことが可能です。

50問のドリルを40分で解いていただいた後、日経の記者経験者が、問題の詳しい解説と問題の中に表れているビジネス、経済、社会の最新トレンドを講義します。試験結果は、素点と公開試験のスコアを予測する「参考スコア」を含む個人成績表を後日、送付します。



❖ プログラム例

10:00-10:10	1. 受験準備 受験番号、氏名等記入 問題用紙配布
10:10-10:50	2. 日経TEST研修ドリル受験 4択50問を40分で解答
10:50-11:00	～ 休憩 ～ マークシート回収、解答解説・講義テキスト・新聞配布
11:00-13:00	3. 解説講座 (1) 日経TESTの目的とその構造 (2) 解答解説① ビジネス知識を増やす(問1～30から数問) 経済、産業、企業の現状とトレンド (3) 解答解説② 考える力(知力)を伸ばす(問31～50から数問) 知識を知恵に、知恵を活用する

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料：140,000円

資料代：1,000円×20名=20,000円

受験料：5,000円×20名=100,000円 計260,000円

❖ 期待される研修効果

- ・ビジネス知識と、その知識を活用する力を測定し、客観的な「気づき」の場が得られる。
- ・解説講座から、問題の答えとその背景だけではなく、最新の経済動向に関連付けて理解することができる。
- ・問題や解答は持ち帰られるので、じっくりと復習することができる。

「相手に伝わる文書の書き方」(日経 経済知力研修 関連カリキュラム)

「間違っていない文章なのに、なぜうまく伝わらないのか？」

情報や文章を並べるだけでは、伝わる文章にはなりません。「誰に何を伝え、その結果どのように相手を動かしたいのか」という目的から逆算して文書を組み立てることが必要です。記者経験者が文章を書くテクニックだけではなく、ビジネスコミュニケーションのコツを指導する講座です。オプションとして、個別添削指導の課題をオリジナルで設定することも可能です。



❖ プログラム例

9:00-10:00	1. 基礎的な確認事項 【講義】 想定読者/主題と焦点の設定/構成と展開を考える/簡潔に論理だてて/写真や図版をどう活用するか 【ワーク】 わかりにくい文章の例を素材に、「なぜ伝わらないのか」の分析を行う 個人ワーク→グループワーク討議→グループで意見を集約→講師講評
10:00-11:00 (休憩含む)	2. 文章作成上の注意点 【講義】 主語と述語の対応/論理を二転三転させない/曖昧な表現をなくす/事実と意見は、はっきりと分けて書く/ 原稿は「文章が主、図表は従」 【ワーク】 悪文の修正とリライト/文中の情報から事実と意見を分類する
11:00-12:00	3. 構成案の作成から執筆への段取り 【講義】 見出し(タイトル)をつける/展開案を作成する/要旨を作成する/部下に指導する際のポイント 【ワーク】 文章にタイトルをつける(長い文章から、重要な情報を抜き出す)

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料：210,000円

資料代：2,500円×20名=50,000円 計260,000円

❖ 期待される研修効果

- ・自分の文章の分かりにくい点に気づき、相手に意図が伝わる文章を書けるようになる。
- ・他の人の文章に対して、効果的な指摘ができるようになる。
- ・コミュニケーションを戦略的に考えられる。「今、何を書くべきか?」を意識し、短時間で効果的なコミュニケーションがとれるようになる。

「日経新聞で伸ばす！情報基礎力養成講座」(日経 経済知力研修 関連カリキュラム)

～若手社員の視野を広げ、情報の収集・発信力をつける～

実際の経済ニュースを素材に使い、どうやって情報収集をするか、どんな情報に着目したらいいのかを、ワークやディスカッションを通じて学びます。実際に新聞を開いて、どんな記事に着目したのかを人に説明するワークを通じて、「情報に対するアンテナ」を高めます。情報収集と発信の力を高めるベーシックな講座です。



❖ プログラム例

9:30-10:40	情報に対する着眼点を養う インターネットと新聞の違い(日経を読む理由、新聞の作り方) / 大きな数字はこうつかむ(日銀短観、国家予算、物価、等)
10:40-12:00 昼食休憩(60分)	現代社会の重要トレンドは？：少子高齢化・これまでの日本経済の歩み 【ワーク】 ディスカッション(例)：もしあなたがランドセル業界にいたら？
13:00-14:10	現代のキーワード：少子高齢化・グローバル化・環境/エネルギー・IoT他、ビジネストレンド等 【ワーク】 ディスカッション(例)：記事と記事の関連をつかみ、方向性を考える。
14:10-15:50	洞察力を高めるトレーニング：限られた情報から推定する方法を学ぶ 【ワーク】 ディスカッション(例)：実在するコーヒESHOPPチェーン店の売上を推測してみよう(フェルミ推計) 【ワーク】 見出しの早読みトレーニング「ニュースに見出しをつけよう」日経を読みこなすコツをつかむ
15:50-17:30	まとめ～今後の情報収集のために 日本経済新聞の電子版の使いこなし術 / 日経・読み方指南 【ワーク】 きょうの日経から「気になるニュース」を探し、自分の着眼点を加えて情報発信しよう

❖ 料金例

20名 | 1日研修の場合(税別)

基本講義料：370,000円

資料代：2,500円×20名=50,000円 計420,000円

❖ 期待される研修効果

- ・ビジネス情報を常にウォッチしていくことの重要性に気づき、情報への接し方を理解する。
- ・新聞などのビジネス情報を得ることを習慣化できるように動機付ける。
- ・最新の経済トレンドを理解し、ビジネスパーソンとしての基礎を固める。

「仕事で差がつく情報の使い方」(日経 経済知力研修 関連カリキュラム)

内定者や新入社員向けの講座です。

「仕事とは何か」「仕事の質を高めるために、情報をどこから得て、どのように活用すればいいのか」を解説します。



❖ プログラム例

10:00-10:25	1. そもそも仕事とは何か どうやって最適解を求めるのか? どうやって「仮説」を立て、ブラッシュアップしていくのか?
10:25-11:15	2. どこからどうやって「情報」を手に入れるのか? 形態による情報種類と特徴(媒体ごとの比較) どうやって「新聞」や「雑誌」を読めば良いのか 情報の仕入れ方と活用術
11:15-11:45	3. どんな「情報」が重要なのか? 編集会議に見る「情報を採む」という行為 → 知識から仮説を導く
11:45-12:00	4. なぜハウレンソウが大切か? 「相談」の仕方のコツ

❖ 料金例

20名 | 3時間の場合(税別)

基本講義料：210,000円

資料代：2,500円×20名=50,000円 計260,000円

❖ 期待される研修効果

- ・媒体によって、情報にはそれぞれ特徴や差があることを理解する。適切な情報源を選ぶことができるようになる。
- ・情報をどのように仕事に活かすことができるかを理解できる。

※「日経 経済知力研修 関連カリキュラム」の講師は、記者経験者に加えて、人材教育事業局員または「日経新聞の読み方セミナー」講師経験者が担当します。

講演会向け講師紹介サービス

企業・団体が主催する講演会向けに、日経新聞の編集委員やベテラン記者らを講師として派遣します。ご要望のテーマに合わせて講師を選定し、ご希望の会場に派遣します。生きた経済・ビジネスの最新動向や、記者ならではの視点を盛り込んだ講演をお届けします。



❖ 講演テーマ例 ※料金:条件によって異なります。お問い合わせください。

マクロ経済・景気

「経済・景気の基礎・見方」「物価と景気」「日本経済の見方」…

海外・グローバル経済

「アジア経済」「中国、米国、EU、ロシア、中東・イスラムの経済・政治」…

金融・投資

「株式基礎」「金融・為替市場の動向」「金融政策」「個人の資産運用」…

政治・地方行財政

「政治・政局展望」「公共政策の決定メカニズム」「日本の統治構造」「地方自治・行財政改革」「地方分権」…

資源・エネルギー・環境・先端技術

「水・食料・資源・エネルギー問題」「原油価格」「地球環境問題」「ハイテク動向」…

ミクロ経済・産業

「インターネットと産業」「技術革新と経営」「エレクトロニクス業界分析」「建設業界展望」…

消費・流通・外食

「消費トレンド」「流通業界分析」「外食産業の動向」…

企業法務

「リスク管理」「知的財産権」「著作権」「製造物責任」…

女性と仕事

「女性リーダー育成」「ダイバーシティ」「ワークライフバランス」…

ビジネスリーダーを育成・評価 日経 TEST

ビジネスパーソンの経済知力を測るテストを実施。春・秋の年2回の全国一斉試験、企業・団体試験などがあり、自分の強みや弱み、全国平均との位置関係も把握できます。



ヒットの真髄をキーパーソンに学ぶ 日経 MJ ヒット塾

ヒット商品や顧客を増やすビジネスモデルを開発した企業を訪ね、トップや企画・開発を率いたキーパーソンらを講師にヒットの真髄を徹底的かつ集中的に学びます。マーケティング学者やアナリストによる講義と課題演習を毎回組み合わせ、貴社のヒット商品づくりを強力に後押しします。



人材育成にセミナーを活用 日経ビジネススクール

日本経済新聞社が主催する人材育成の場です。厳選された講師陣による年間約300講座のセミナーや約50タイトルのeラーニングから選んで受講できます。



英語力とビジネス力も強化 GlobalEnglish 日経版

日経、Financial Times がサポートする本格的でリアルなビジネス英語学習。ほぼ全ての課題がビジネスシーンの設定で作られているので、グローバルなビジネスコミュニケーション力がしっかり身に付きます。



お問い合わせ

日本経済新聞社 人材教育事業局 研修事業部
日経 経済知力研修事務局

E-mail: elpro@nex.nikkei.co.jp

TEL: 03-6256-7372 (受付時間: 土日祝日を除く 9:30~17:30)

<http://www.nikkei-nbs.com/nbs/chiryoku/>

経済知力研修

検索

取扱名